

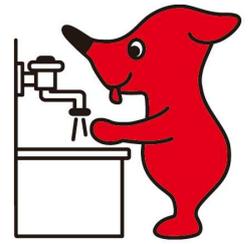
学校保健 知得情報

平成23年8月発行

って

する

プール熱と手足口病、 ヘルパンギーナにご注意！



こどもを中心に夏場の感染症の「咽頭結膜熱」(プール熱)と「手足口病」、「ヘルパンギーナ」の患者が急増しています。県疾病対策課によると、咽頭結膜熱の定点観測している県内135医療機関の報告数は、7月10日～17日の1週間の間に196件に上り、1医療機関の患者数が1.52人で、全国平均0.73人を大きく上回り、過去5年間で最多の患者数となっています。また、手足口病の報告数は、7月10日～17日の1週間の間に873件に上り、1医療機関の患者数が6.77人で、咽頭結膜熱同様の過去5年間で、最多の患者数となっています。

咽頭結膜熱はプールでの感染が多く、プール熱とも呼ばれ、5～7日間の潜伏期間において、発熱や咽頭炎や結膜炎の症状が出ます。一方、手足口病は、口の中や手のひら、足などに2～3ミリ程度の水ぼう性の発疹がでる特徴があり、ヘルパンギーナは高熱が2～3日続き、上あごの奥に水ぼうがで、口内炎になり、強い痛みを伴います。両疾患とも、まれに髄膜炎などの重症化に至ることもあります。

プール熱と手足口病、ヘルパンギーナともに、接触や飛沫(ひまつ)感染により広がることから、感染防止のための、手洗いとうがいの励行が大切です。

今後、各学校においても感染症予防のために、引き続き次の点に留意してください。

1 学校における管理

- (1) 毎日の出欠席の状況を把握する。
- (2) 健康観察を適宜強化して、「咽頭結膜熱」(プール熱)と「手足口病」、「ヘルパンギーナ」の児童生徒の早期発見に努め、事後措置の徹底を図る。
- (3) 学校のプール水の水質等の管理を適正に行う。
- (4) 学校医、地域関係医療機関からの情報交換と連携を図る。

2 児童生徒に対する指導

- (1) 栄養の摂取、十分な休養睡眠、適度な運動等に留意させ、身体の抵抗力の増進を図る。
- (2) 「うがいや手洗いの励行」の衛生対策を徹底する。
ア うがいのポイント
イ 手洗いのポイント ※具体的な方法が厚生労働省ホームページに掲載してあります。
- (3) プール前後のシャワーを充分に行うこと。
- (4) タオル等の貸し借りは行わないこと。
- (5) 家庭生活においても、帰宅時のうがいや手洗いの励行など指導する。

(参考) 厚生労働省ホームページ

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/index.html>

県疾病対策課ホームページ

<http://www.pref.chiba.lg.jp/shippei/kansenshou/pu-runetsu.html>